熊本県議会議員

月刊 髙島和男がゆく

令和2年3月号

新春の集い

1月25日に地元、2月7日は地元以外の地域、企業、団体の皆さんを対象に2回の新春の集いを開催しました。おかげさまで合計600人を超える皆さんにご来場いただき盛大に開催することができました。以下はその時の挨拶の一部です。

昨年を振り返ると何と言っても1番の出来事は『御代替り』新しい時代が幕開けしたことでしょう。平成の時と違って今回は生前譲位で列島は祝賀ムードに包まれました。一連の行事を通して天皇皇后両陛下のお姿を見るにつれ、新時代の到来を確信し、令和の時代が平和で安寧の時を刻んでもらいたいと強く願ったのでした。

さて今年は春に県知事選挙が行われます。私たち県議にとって知事選挙は自身の選挙に次いで最も身近で最も大切な選挙といえます。

蒲島知事のこれまでの歩みは物事の手順を表す『起承転結』に当てはまると思います。「県民の幸福量の最大化」を旗印に財政再建、水俣病、川辺川ダム問題に決断を下し決着への道筋を見出だしました。また誕生から10年が経過し、今や国内はおろかアジアに活動の範囲を広げて大きな経済効果を生み出したくまモン。これらは起承転結の「起」と「承」にあたる1、2期目でした。

そして3期目の任期が始まるその日に熊本地震が発災しました。当然発災以降、熊本県の最重要課題は復旧・復興になりました。まさに起承転結の「転」でありました。

益城町の区画整理事業、阿蘇への交通ルート、今もなお4,000人を超える方々が仮設住宅での生活を余儀なくされている現実を鑑みると復興はまだ道半ばといえます。その他にも空港の民営化やアクセス、熊本都市圏の渋滞解消、地方創生への道筋等、同時並行で取り組まなければならない課題も山積しています。

今回4期目再選を果たしていただき、起承転結の「結」、諸々の課題を私たち議会も一体となり完遂していかなければなりません。

多選では…との声もありますが、述べたとおり私は知事の2期まで と3期目以降は全くの別物と認識しています。それに加えて地震以後、熊本県は平時ではありません。だからこそ今のこの流れを断ち切るわけにはまいりません。

ご来場の皆様には蒲島候補への支援の輪を最後まで広めていただきますようお願い申し上げます。

最後に本年がご来場の皆さんにとって輝かしい飛躍の年になることをご祈念申し上げ新年の挨拶と致します。

髙島和男事務所

届けます！あなたの思いを県政に

髙島和男サポーター募集中です！

〒862-0962 熊本市南区田迎 2-17-7

TEL.096-288-6004

FAX.096-288-6009

ホームページでは写真付日記を毎日更新！

http://takashima-kazuo.com

Facebookもやっています！

2月定例会

2月4日から26日までの23日間の日程で2月定例会が開かれました。

今定例会は防災・減災、国土強靭化対策やTPP関連など経済活力など維持向上に必要な経費としての268億円の補正予算と令和2年度の当初予算を審議しました。

令和2年度の当初予算は知事の改選期を迎えるのでいわゆる『骨格予算』になります。政策的判断を要しない人件費などの義務的経費や、地震への対応といった県民生活への影響、緊急性の観点で年度当初から着手する必要があると思われる経費7,155億円が計上され審議しました。

また2月25日、新型コロナウィルス対応について執行部から説明を受ける全員協議会が急遽招集されました。

熊本県では5例目の患者が確認される中、冒頭蒲島知事から患者発生後直ちに庁内全部局に以下の3原則を示したことが紹介されました。

①相談対応・まん延防止対策を徹底し、感染拡大の防止に努めること。

②患者やご家族のプライバシーを最大限守りながら正確な情報提供を行い、県民の不安の解消に努めること。

③風評被害を含む県民生活、県経済への影響の最小化に努めること。

その後、現状と主な取り組みの説明があり、質疑終了後、執行部と県議会一体となってこの難局を乗り切ることを確認したのでした。

託麻中学校区卒業記念交流会

1月25日、藤崎台球場で開催される『第20回 託麻中学校区卒業記念交流会』にお招きいただきました。地元の小学校の野球部の卒業記念として毎年開かれています。今回天気が気になりましたが、みんなの願いが通じて開会式を迎えました。昨年末、地元託麻中、九州学院高校を卒業した川野涼多くんが西武ライオンズに入団しました。そのことを踏まえて「目標を掲げて取り組んでください。憧れの藤崎台球場でプレーできることを親御さんや役員の皆さんに感謝して欲しい」と話したのでした。

整列した選手を見て、またこの中からあとに続く選手が出てくるのでは…と期待と夢が膨らんだのでした。引き続き第1試合の前に恐れ多くも始球式の指名を受けました。久しぶりにボールを投げましたが、どうにかキャッチャーまで届いたのでした。